


のびゆく東丘

名古屋市立東丘小学校

校訓：(人)を大切に (物)を大切に (夢)を大切に 

夢に向かって 大きく羽ばたいて

20日(火)に第59回卒業証書授与式が行われ、106人の6年生を送り出しました。一年間、分団登校やペア活動、委員会活動、クラブ活動、行事など、様々な場面で、東丘小学校の最上級生として頑張ってきた6年生が、晴れやかな姿で巣立ちました。そして、5年生は、在校生の代表として立派な態度で式に臨んでくれました。6年生から5年生にしっかりとバトンが手渡された瞬間でした。当日は、雨が降り続いていましたが、保護者の皆様の整然とした、愛情に満ちた姿に見守られ、すばらしい式となりました。来賓として参列して下さった皆様も感動に瞳をぬらしておられました。

今日は、修了式です。それぞれの学年の課程を修了されたこと、お祝い申し上げます。この一年間の保護者の皆様、学区の皆様のご理解ご協力に職員一同、心より感謝申し上げます。

入場を待ちます



万感の思いを込めて名前を呼びます



緊張しながら入場します

堂々と夢や目標を述べます



しっかりと証書を受け取ります

旧担任から証書ホルダーを受け取ります



卒業の喜びと感謝の気持ちを歌声にのせて



最後は、笑顔で花道を通して巣立ちます

自分に与えられた命の時間を大切に、力強く全うしよう

卒業生の皆さん、ただ今、106人の卒業生一人一人に卒業証書を手渡しました。いつもとは違う緊張感の中、まっすぐに私を見つめる瞳、胸を張って誓いを述べる凛とした姿に、この六年間の成長の証を感じ、とても嬉しく思いました

皆さんと出会ったのは、三年前。皆さんが四年生の時でした。何をするのにも元気一杯のギャングエイジ。時には、羽目を外して、担任の先生にしかられている姿も目にしました。しかし、三年過ぎた今、皆さんは、よくぞここまでと感心するほど、成長してくれました。先生の心には、日々の生活の中で、そして、様々な行事の中でのみなさんの姿が焼き付いています。

小さな一年生の手を引いて、ゆっくりと坂を上ってくる優しい姿、最後まであきらめずにやり抜いた運動会の組み立て体操でのりりしい姿、修学旅行で、日本の歴史遺産に目を輝かせていた姿、親から子へと受け継がれていく命の尊さを迫真の演技で伝えた学芸会。エンディングで歌われたサークル・オブ・ライフの歌声には観客のだれもが胸を熱く、大きな感動に涙しました。どの場面においても、皆さんは、本校の誇れる最上級生でした。

六年間の小学校生活を終え、今、東丘小学校を巣立とうとしている皆さんに、ある歌を贈りたいと思います。

……生命の奇跡(リベラ)……

この歌は、イギリスの少年合唱団リベラが歌う「生命の奇跡」という歌です。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンのコマーシャルソングとして聞いたことがある人もいないかもしれませんね。

私は、とても悲しい出来事に遭遇し、心が折れそうになってしまったときに、この歌に出会いました。目を閉じて、じっとこの歌を聴いていると、心がすうっと軽くなり、気持ちが晴れていきました。それ以降、つらいことや悲しいことがあったときには、この歌に耳を澄ますようにしています。私の心を救ってくれた楽曲なので、今日ここでみなさんに贈りたいと思いました。それとともに、どうしてもみなさんに伝えたいことがあります。

この歌の歌詞の一部に「全てが生命の奇跡 生命の歌に声を合わせれば これから始まる人生に愛の力が働く」という部分があります。

「生命の奇跡」。みなさんは、五年生の時に「命の授業」で、人が生まれてくるということは、1400兆分の一の確立、つまり奇跡のような結果だということを知りました。そして、お母さんの体内で生れた皆さんが世に生まれ出でてくるまでにもたくさんの困難があることを体験から学びました。

また、一昨年「命の大切さを考える」講演会では我が子をいじめによる自死で失ったお母さんの心の叫びを聞き、「自分の命は、自分のものだけれど、自分だけのものではない」ということを教えていただきました。

さらに、同じく昨年の講演会では、動物写真家の宮沢先生から「人間の命は、長い長い年月の間、連綿と受け継がれてきたものである」ということを教えていただきました。これは、まさにみなさんが演じた「ライオンキング」にも通じるものがあるお話でしたね。

そして、最後に国語の授業で、日野原重明さんの「君へ」という文章を読んだかと思います。日野原さんは、昨年105歳という天寿を全うされた聖路加国際病院の医師です。「君へ」の中で、日野原さんは、「いのちとは、君たちのもっている時間、君たちが使える時間」であると書いておられます。そして、この時間を自分以外のだれかのために使える人になってほしいという遺志を皆さんに伝えておられます。このことは、ご自身が100歳を超えてもなお、各地の小学校を回って子どもたちに「命の授業」を行うことで範を示されています。

皆さんには、奇跡のようにして生まれたその命、太古の昔から受け継がれてきたその命を大切にできる人になってほしい。そして、自分の命とともに、自分の周りの人々の命も大切にできる人であってほしいと願っています。

みなさんがこれから歩いていく道のりには、楽しいことばかりが待っているわけではありません。悲しいことや苦しいこと、ひょっとしたら、深い絶望感に襲われることがあるかもしれません。そんなときは、思い出してください。自分は、奇跡の結果として生まれてきたかけがえのない存在であるということ。そして、今日みなさんに贈った「生命の奇跡」という歌のことを思い出してもらえたら、この歌が、皆さんの心の支えになってくれたら、と願っています。

さあ、旅立ちの時です。少々のことでは、倒れないたくましい心をもって、自分の命を全うしてください。皆さんの母校である東丘小学校は、いつまでも皆さんのことを応援しています。学校だけではなく、皆さんのお家の人たち、そして、地域の方々も皆さんの強力な応援団です。

平成30年3月20日 東丘小学校長 青木 香織

平成30年度 始業式について 4月9日(月)

2～6年生までの児童は、分団登校します。登校した児童は、新学年の土間に掲示してある名簿で学級を確認してから新教室へ入ります。

3年生は北校舎東土間、2年生とひかり・みらい・のぞみ学級は南校舎東土間、4年生は南校舎中央土間、5年生と6年生は東校舎土間を使用します。

当日は2時間授業で、10時45分頃下校します。

教科書等を配布します。大きめのかばんを持たせてください。